COC+事業における特色人材育成部門まちづくりWGの活動報告（その１）*

吉村 朋矩[*1]，伊豆蔵 庫喜[*2]

Education for Distinctive Human Resource Development in Community Planning Working Group of COC+ Program (No.1)

Tomonori YOSHIMURA[*1] and Kouki IZUKURA

[*1]Department of Architecture and Civil Engineering

MEXT (Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology) is being conducted program for promoting regional revitalization by universities as centers of community (COC+ program) at present. The purpose of COC+ is to make a flow to the regional of "person" of core in regional revitalization. This program is supporting the distinctive university. It was also adopted by COC+ in Fukui prefecture. All 4th-year university in Fukui prefecture have been tackling COC+ program. Therefore, We'll make a report of its past activities in the community planning working group. Introduce about practical workshop worked especially in Takahama town, Fukui Prefecture.

Key Words : COC+Program, Human Resources Development, Regional Revitalization

1.　COC+の背景

2010年の国勢調査に基づいた試算において，2040年時点で20-39歳の女性人口が半減する自治体を「消滅可能性都市」として見直しを図っている．2040年までに消滅する恐れのある市町村は1800市町村のうち49.7%を占める896市町村であり，そのうち人口1万人未満は523市町村（全体の29.1%）であると日本創成会議にて報告がなされている[1)]．2014年9月には国により「まち・ひと・しごと創生本部」が設置され，2060年までに日本の人口が1億人切らないという数値目標を掲げた「まち・ひと・しごと総合戦略」が示された[2)]．基本的な考え方として，①「東京一極集中を是正する」，②若い世代の就労・結婚・子育ての希望を実現する，③地域の特性に即して地域課題を解決する，といった3点が挙げられる．さらには，地方大学等5か年戦略についても示されており，①知の拠点としての地方大学強化プラン，②地元学生定着促進プラン，③地域人材育成プランの3つのプランを推進するとしている．以上のことから，文部科学省では2015年度より大学が地方公共団体や企業等と協働して，学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに，その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を大学の取組みを支援することで，地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+：Centers of Community ）」を実施している．

福井県においてもCOC+に，福井県内の全ての４年制大学（福井大学，福井県立大学，福井工業大学，仁愛大学，敦賀市立看護大学）が連携する５大学連携事業が採択され，「ふくいCOC+事業推進協議会」が設置された．筆者らは，教育プログラム開発委員会特色人材育成部門のまちづくり分野ワーキング（以下，まちづくりWGという.）に所属することとなった．まちづくりWGは，特色人材育成部門のワーキングの中では唯一５大学が協働で運営している組織である．そこで本稿では，まちづくりWGが取り組んできた内容を報告するとともに，まちづくりWGでの議論の活性化を図るために本学において筆者らが独自に取り組んできた内容について報告する．特に、2016年度まちづくりWGで主に取り組んだ福井県高浜町でのま

* 原稿受付　2017年02月28日
*1 工学部　建築土木工学科
*2 事務局
E-mail: yoshimura@fukui-ut.ac.jp

ちづくり実践ワークショップおよび、福井県外の大学等で実施している地域をフィールドとした学生活動の先行事例について紹介する。

2.　ワーキングの構成員とこれまでの取り組み

2.1　構成員について

まちづくり WG は，各大学の教員 1 名，事務職員 1 名で構成されている．福井大学については，事務職員は在籍しておらず，学内の WG メンバーが必要に応じて参加するといった形態がとられている．基本的には，幹事校の仁愛大学の金田明彦先生を筆頭に 9 名で構成し，まちづくり WG の活動に取り組んでいる．

2.2　これまでの取り組みについて

まちづくり WG では，これまでに特色人材育成部門の全体会議や中間報告会，2016 年 2 月に開催された「地域創生の担い手を育み活気あるふくいを創造する 5 大学連携事業」をテーマとしたキックオフフォーラムを含め，Table1 に示すよう，19 回に亘り活動を行っている．WG 会議については，2015 年 12 月に開催された第 1 回特色人材育成部門の全体会での会議から現在までに 8 回開催している．2016 年 5 月には，福井青年会議所主催の育都祭のなかの企画である「ふくい歴史体験・体感ツアー」への協力・支援を行い，本学の学生 4 名が参加した．さらに，5 大学の学生，教職員が連携するとともに，福井県高浜町の協力を得て，まちづくり実践ワークショップを 2016 年 9 月に開催している．その他，福井県情報システム工業会や福井県眼鏡工業組合と県内大学との懇談会を開催し，インターンシップの実施状況や問題点，就職採用に関わる事項，産学連携についての議論をこれまでに行ってきている．主な取り組みについては，次章以降に述べる．

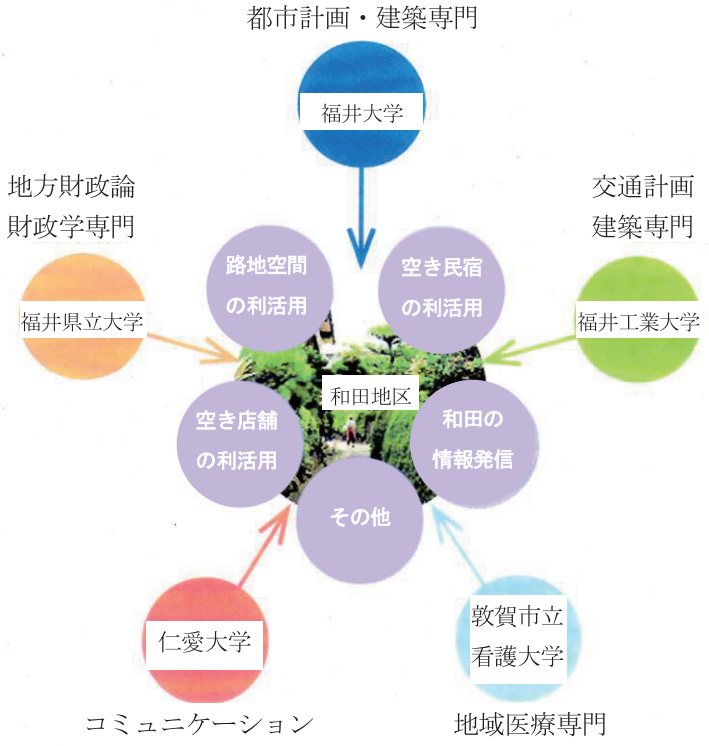
Table 1　まちづくり WG での取組み

年度	回数	日時 / 場所	特色人材育成部門	WG会議	WGイベント
2015年	1	12月15日（火）/ 福井工業大学	第１回 特色人材育成部会全体会	第１回　まちづくり分野WG	
2016年	2	2月15日（月）/ AOSSA　福井県民ホール	キックオフフォーラム（全体）		
	3	2月19日（金）/ 仁愛大学		第２回　まちづくり分野WG	
	4	3月７日（月）/ ふくい産業支援センター		福井県情報システム工業会と 県内大学との懇談会	
	5	3月22日（火）/ 鯖江めがね会館		福井県眼鏡工業組合と 県内大学との懇談会	
	6	4月1日（金）/ 仁愛大学駅前サテライト		第３回　まちづくり分野WG	
	7	5月13日（金）/ 仁愛大学駅前サテライト		第４回　まちづくり分野WG	
	8	５月29日（日）/ 福井駅周辺			「育都祭」参加
	9	６月７日（火）/ 福井大学			高浜町との打ち合わせ 『第８回　和田de路地祭2016』
	10	７月３日（日）/ 福井県高浜町			現地見学会・地元関係者打ち合わせ 『第８回　和田de路地祭2016』
	11	8月1日（月）/ 福井工業大学	第２回 特色人材育成部会全体会		
	12	8月10日（水）/ 仁愛大学		第５回　まちづくり分野WG	
	13	8月31日（水）/ 仁愛大学		第６回　まちづくり分野WG	
	14	9月13日（火）/ 福井県高浜町			地元実行委員会とのディスカッション 『第８回　和田de路地祭2016』
	15	9月18日（日）・19日（月）/ 福井県高浜町			『第８回　和田de路地祭2016』で COC+企画の実施
	16	10月15日（土）/ Fスクエア（大学連携センター）	特色人材育成部会　中間報告会		
	17	11月7日（月）/ 福井県高浜町			反省会 『第８回　和田de路地祭2016』
	18	12月1日（水）/ 仁愛大学駅前サテライト		第７回　まちづくり分野WG	
2017年	19	１月17日（火）/ 仁愛大学駅前サテライト		第８回　まちづくり分野WG	

3.　まちづくり実践ワークショップの実施について

各大学の専門分野や特色・強みを活かし，実践的なまちづくりを行うことを目的に「まちづくり実践ワークショップ（以下，実践 WS という.）」を企画することとした．2016 年 5 月 13 日のまちづくり WG には，構成員の他に本学の代表学生 2 名を含み 5 大学の学生 13 名が参加した．内容は，参加者の顔合わせと実践 WS の対象地，実施時期など，概ねの実施方針について議論・検討を行った．これにより，対象地を福井県高浜町和田地区とし，

2016 年 9 月に開催される「和田 de 路地祭（以下，路地祭という.）」と同時に開催する方向で調整することとした．これにより，高浜町及び路地祭実行委員会と幾度にもわたる検討を行い，Fig1 に示すようにまちづくり WG における各大学の専門性を活かして，路地祭を路地祭実行委員会や高浜町との連携・協働により実施することを決定した.



（福井大学 野嶋研究室 作成資料より筆者作成）

Fig.1 まちづくり WG における各大学の専門性と WS での役割

2016 年 7 月 3 日には，実践 WS に向けた事前フィールドスタディを行った．福井県高浜町和田地区の和田公民館にて，路地祭の実行委員会側と COC＋事業に参加する 5 大学の教職員（5 名），学生 24 名（福井大 7 名，福井工大 9 名，仁愛大 6 名，敦賀看護大 2 名）との初顔合わせ（自己紹介）をした後，副会長の村宮博明氏から路地祭の概要やこれまでの取り組みに関しての説明を受けた（Fig2）．説明を受けた後，和田地区内のまち歩きを行い，実践ワークショップの際に拠点として使用する空き店舗の「カミヤ」や空き民宿の「中山邸」の規模や間取りの把握を行った（Fig3-Fig5）.

Fig.2 実行委員会や高浜町との路地祭に関する打ち合わせの様子

Fig.3 空き店舗カミヤの調査の様子

Fig.4 若狭和田浜における取組みの説明

Fig.5 空き民宿中山邸の調査の様子

事前フィールドスタディに基づき，学生企画の立案を行うために大学間での学生が交流しながら多様な人々と協働し実施できるよう，2 大学以上の大学の学生で構成されるグループ分けを行った．2016 年 8 月 10 日のまちづくり WG 会議にて，各グループより学生企画の発表を行い，企画の絞込みおよび，ブラッシュアップの作業を行った(Fig6，Fig7)．その際，各大学の教職員および，高浜町職員によってアドバイスを行うとともに，高浜町和田地区での可能性についても同時に検討した．筆者らは主に本学の学生が代表を務める空き民宿である中山邸を活用した「中山邸を中心に和田地区全体を俯瞰した新たな観光需要の調査とモデル空間の提案」を担当することとなった．その他，本学の学生からは「点と点を結ぶ光の動線」と題して，来訪者や住民が路地や和田地区の良さを再認識・体感してもらうことを目的にし，点在する和田地区のスポットとスポットを光によって結びつけ，人の誘導をしようという試みの提案がなされた．

Fig.6 学生企画の発表会の様子①

Fig.7 学生企画の発表会の様子②

学生企画の発表会終了後も，高浜町や路地祭実行委員会の方々との意見交換を行いながら，企画をブラッシュアップし学生の企画書が完成に至った．学生は，路地祭の約 1 週間前に和田地区に入り宿泊しながら，当日までの準備を各担当の教職員と地元の方々の協力を得ながら担当個所で進めてきた．本学の学生の主な取組みとしては，空民宿である中山邸を利活用し，サイクリスト向けの宿泊施設を提案するとともにレンタサイクルの運営を行い和田地区の観光周遊ルートを模索した（Fig8-Fig10）．これらは，福井大学が運営するカフェとの協力で実施した（Fig11）．また，その他の学生企画や和田地区の“場”と連携して行った（Fig12，Fig13）．学生たちは，見学者やレンタサイクルの利用者から様々な意見をもらい，今後の活動に役立てたいとしている．これを機に福井大学をはじめ福井県立大学，仁愛大学，敦賀市立看護大学の学生と本学の学生との連携を強め，ふくい地域をフィールドとした取り組みを学生が自発的に実施してくれることを期待している．

これらの活動を通して，筆者らは①学生が地域の課題を理解したうえで，地域課題解決に資する人材の育成，②生涯にわたって主体的に学び続け，多様な人々と協働し新たな価値を創造することの出来る人材の育成といった 2 点の人材育成に努めるとともに，学生の地域での学びへの動機づけの創出を図りたいと考えている．また，本学学生の工学基礎力 ・人間力はもとより，情報収集分析能力，企画力，実践力等のスキル向上を目指したい．

Fig.8 中山邸を活用した学生企画

Fig.9 サイクリスト向け宿泊ルームの提案

Fig.10 レンタサイクルの運営

Fig.11 カフェの様子

Fig.12 カミヤでの COC+企画の紹介

Fig.13 カミヤでの総合案内所の様子

4. 地域をフィールドとした学生活動の先行事例調査の実施

4.1 熊本県熊本市（熊本大学および大学コンソーシアム熊本）

2016 年 3 月 29 日，熊本大学まちなか工房の施設見学及び取り組みに関して，筆者らはまちなか工房事務補佐員の岡村菜津子氏に現地にてヒアリング調査を行った．まちなか工房は，全国に先駆けて 2005 年に中心市街地の中に開設され，「研究・教育と連動した地域情報の蓄積」，「官民まちづくり組織の連携支援」，「市民のまちづくりに関する学習交流会の提供」，「地元民間組織のまちづくり活動支援」という 4 つの理念に基づき，まちづくりの拠点として取り組まれている．3 月 30 日には，大学コンソーシアム熊本の事務局長の渡邉和親氏より大学コンソーシアム熊本の概要等に関して説明を受け，事務局主事の上田恭子氏及び石本安紗美氏より熊本県内の大学連携事業や，これまでの取り組みに関しての説明を受けた．COC+事業との連携事業に関しては模索中ではあるが，これまでの大学間連携の取り組みに関する経験を活かし，COC+事業に参加していない大学と参加している大学との連携に取り組むことが必要であるとのことであった．また，まちなか工房代表の溝上章志教授から詳細にまちなか工房での取り組みに関する説明を受けた．まちなか工房は中心市街地に位置しているため，市街地エリアという実際に問題が起こっている現場に学生や教員が身を置くことで，自ら課題を発見し，自分なりの解決策を見出す能力を養えることが期待でき，当該施設は学生がまちづくりを考えるために極めて重要であるとも述べられていた．次に，地域創生推進機構の内山忠特任助教より，熊本県内の COC+事業に関する今後の取り組みや，

これまで実施してきた COC 事業の取り組みに関する説明を受け，まちづくり WG としての今後の取組みに関して有用な情報を得ることが出来た.

4.2　高知県高知市（高知大学および高知県産学官民連携センター・ココプラ）

2016 年 11 月 11 日，高知大学地域連携推進センター域学連携推進部門長・准教授の吉用武史氏および，同大学地域連携課域学連携推進係係長の小島真一氏に対して，高知大学が進める COC 事業，高知大学が主幹校で進める COC+事業についてヒアリングを実施した. 高知大学は COC や COC+事業の先進校であり, 特に地域での教育・研究を盛んに実施している．今回のヒアリングの内容として，高知大学が展開している地域コーディネーター（UBC：University Block Coordinator）やサテライトオフィスに関する内容，高知大学を含めた高知県内大学の取組みに関することに重点をおいた．これまでは地域課題を解決することが困難であったが，UBC を雇用して常駐させたことで解決したこと，県の職員と UBC が連携し大学機関という中立な立場で地域の方々と話し合う場が創出できたこと等を強調された．さらに，地域課題の窓口機能を UBC が行うことにより，大学内での事務局および教員との連携がスムーズに行われていること等の説明を受けた.

一方，COC+事業では,「えんむすび隊」という県内各地を訪ねる 1day ツアーによって高知出身以外の学生が高知県の市町村に赴き，地域の課題の認識を促している．これらの体験を通じて学生団体が立ち上がり，地域との連携が開始される事例も紹介された．また，高知県内で進められている「地方創生推進士」のロゴマークは，今後の商品開発や学生の就職支援等にも活かせるものであることが，大変参考になった.

11 月 11 日には，高知県産学官民連携推進センター・ココプラについての現地研修を行った．当該センターは，高知県立大学・高知工科大学の永国寺キャンパス地域連携棟に 2015 年 4 月に開設された高知県の機関であり，高知県の産・学・官・民をつなぐ知の拠点・交流拠点・人材育成の拠点を３つの基本機能としている．また，県内の大学等からココプラコーディネーターを派遣し常駐している体制が整い，COC+における事務局間での連携が図られている点は参考になった．当日は「土佐まるごと立志塾」の個別政策案発表会が行われており，当該施設を活用して民間企業や大学，自治体の職員がともに学ぶ講座も多く実施されているとの説明を受けた．今後，F スクエアの活用方法やまちづくり WG での拠点施設の整備に関する懸案事項について，当該施設見学を通して見出すことが出来た.

11 月 12 日には，学生が NPO 団体と協働で企画したイベント会場の小村神社にて，UBC の大崎優氏および，日高村の地域活性化に協力する高知大学や高知県立大学の女子学生サークル「あだたん」の代表を務める高知大学３回生の橋田有紗さんにヒアリングを行った. 内容は, UBC の活動に関すること, 日高村での学生活動の内容, イベント実施に向けた取り組み，日高村との関わり等に関する事項である.「あだたん」のメンバーは 3 回生 6 名，2 回生 2 名，1 回生 5 名の 13 名から構成され，このうち高知県出身者は 4 名である．地域のことを知りつつ地域の人たちの力になることを目標に掲げ，NPO 法人と協働して活動している．ヒアリングを通して，まちづくりW.G.で実践している学生が関わるイベント等の参考になったことはもとより, 学生が地域で活動することの重要さを改めて認識した.

以上のことを通して、現在まちづくり WG で取り組もうとしているまちづくり関連科目の設置や県内各地への地域コーディネーターの配置、まちづくり教育サポーターのネットワーク構築について、大変有用な情報を得ることができ，今後のまちづくり WG の活動に役立てたいと考えている.

謝　　辞

COC+事業まちづくり分野 WG での活動に際し，WG 幹事である仁愛大学地域共創センター長の金田明彦教授（2017 年 2 月逝去）には，終始熱心なご指導をしていただきました．ここに記して謝意を表すとともに，哀悼の意を表します.

文　　献

(1) 日本創成会議・人口減少問題検討委員会（座長：増田寛也），“成長を続ける 21 世紀のために「ストップ少子化・地方元気戦略」”，2014.
(2) 内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局，“まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」”，2014.

（平成 29 年 3 月 31 日受理）